

経済学部FDセミナー 報告書

2007.12.19.作成
経済学部FD委員

実施：12月3日（月） 13:30～16:00
テーマ：学部主導のFD活動の進め方についての私見
報告者：川西 諭 先生（上智大学経済学部FD委員）
場所：経済学部棟9階会議室

1. 上智大学でのFD活動状況

大学全体で3つ

- ①FDアンケート（教養科目についてのみ） 学期末
インターネット利用（携帯電話からも可）
回収率は2割程度
- ②新任教員研修
学内で選ばれた教員の指導の下で実施。宿泊研修なども。
- ③FD講演会／フォーラム

FD活動によって改善できること

個人でできることを待つのではなく、組織として経験を共有できること
facultyとしてのコラボレーションとコーディネーションの推進

2. 上智大学経済学部としての独自FD活動状況

目的

- ①もっと良い授業をしたいという積極的意欲からの改善
- ②学生と教員との間のコミュニケーションの促進

＝問題点＝

自分たちの声はその期の授業改善に反映されないため、アンケート回答へのモチベーションが低い。
そのため、回収率が低い。

↑

＝対処＝

学生のためにやっているという姿勢を示す。

- ・インターネットを用い学期途中で行い（11/15－11/30）、授業改善へフィードバック
これについては回収率が低くても構わない。
- ・学期末にペーパーベースでのアンケートを実施。こちらは、回収率が高くなければならないので、質問項目を極力少なくする。コメント欄もなしにする。（今学期から実施なので、実績についてはまだデータはない。）

※目的に応じてアンケートを変えることが肝要。

※学生に趣旨を理解させる努力が必要である。

＝大学院のFD＝

少人数クラスが多いのでアンケートでは匿名性が確保できない。そこで、個々の科目ではなく、環境や制度について院生の意見を聞くというスタイルをとるため、院生側に受け皿機関を作らせているところ。

3. 大人数クラスでの授業運営

まじめな学生を裏切ってはいけない！
学生が来なくなる授業を目指して！

＝専門学校（予備校）と大学との違い＝

学生自身のコスト意識・モチベーションが根本的に異なる。

したがって、私語などの受講態度については、大学でのみ問題になる。

＝大人数講義でコントロールが可能になる条件＝

①学生にモチベーションがある。

②学生が教員を信頼している。

この2つの条件が整えば、大人数講義（注：私学の場合、福井県立大学などとは比較にならない大人数講義が開講されるケースが多々ある。）であっても、掌握できる。

＝学生の動機付け＝

学生にとってためになることは何か？ →コンテンツ充実

それを知っている意義は何か？ →動機付け（学生の危機意識に働きかけるなど）

どのように教えればよいか？ →教育方法の改善（学習科学の研究を応用）

＝川西先生のケース＝

・私語をその都度注意して、させないようにしている。

うるさい学生は学生証を預かる。生け贄（?!）

・出席は取らない。（出席を取らなくても出席率が高い授業が理想的）

理由

出席は学生の権利であって、義務ではない。

モチベーションの低い学生が出席するとかえってコントロールが難しくなる。

双方向を指向している

大人数講義の場合、出席をとるだけで時間がかかる。

・最初が肝心なので、授業の最初に「大きな音」をたてて、注意喚起。しかし、笑顔で対応する。

・体験型学習、問題解決型学習、能動的学習を実践

4. 討論

以上の報告をもとに、参加者との間で討論が行われた。論点は多岐にわたったが、次のようにまとめられる。

学生にとってのFDの意義（期待を持たせすぎても良くないのでは？）

何のためのFDかをはっきりさせる（教員管理のため？業務改善のため？）

教員側のモチベーションの維持

GPA制度についての課題（上智大学では全学規模で実施）

等々です。

会議室で開催したこともあり、和気藹々と議論することができた。

（文責：廣瀬）